

外為マンスリーレビューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2015/05/01

豪州の金融政策に注目

通貨ペア	基調		ページ数
豪ドル/円	⇒	RBAの利下げ観測はやや後退 予想レンジ: 90.800 ~ 96.200 円	2-3
NZドル/円	⇒	決定打を欠く 予想レンジ: 88.200 ~ 92.100 円	4-5
ランド/円	⇒	リスク要因が山積み 予想レンジ: 9.500 ~ 10.400 円	6-7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



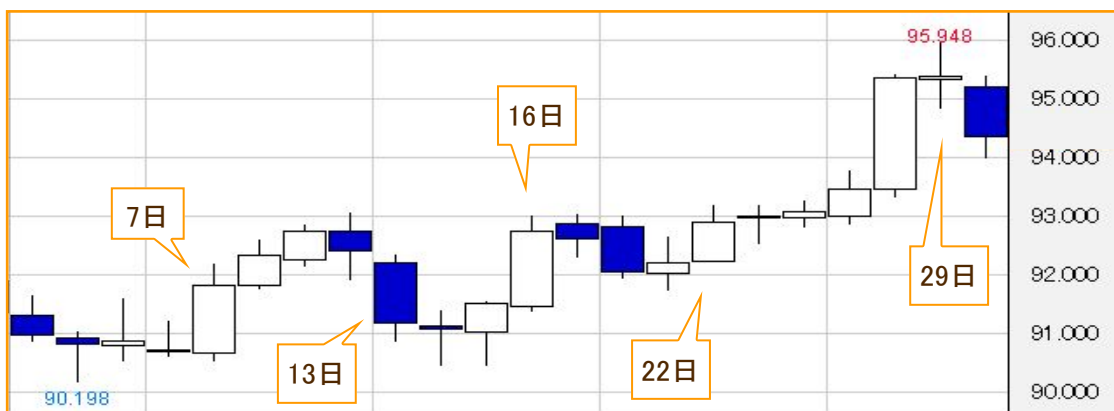
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

豪ドル/円 4月の推移

4月の豪ドル/円相場は90.198～95.948円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約3.3%の上昇(豪ドル高・円安)となった。

豪準備銀行(RBA)の利下げ観測が重石となり、2日に90.198円まで下落して約2ヵ月ぶり安値を付けるも、90円の大台を割り込む事なく推移。RBAが政策金利据え置きを発表した事を始め、複数の豪経済指標の発表を受けてRBAの5月利下げ観測がやや後退すると、下値不安は後退した。その後、ギリシャ情勢に対する楽観的なムードが浮上してリスク回避の動きが和らいだ上、予想より弱い米経済指標の発表が相次いで豪ドル/米ドル相場で豪ドル買い・米ドル売りが強まった事から、29日に約3ヵ月ぶり高値95.948円まで上値を伸ばした。原油や鉄鉱石の価格が持ち直した事も追い風となった。



四本値

OPEN	91.323
HIGH	95.948
LOW	90.198
CLOSE	94.356

7日	RBAは理事会で政策金利の据え置き(2.25%)を決定。一部で利下げ観測がくすぶる中、失望から豪ドル買いが強まり、豪ドル/円は92.181円まで急騰した。
13日	中国3月貿易収支が30.8億ドルの黒字と予想(401.0億ドルの黒字)の1/10にも満たない弱い結果となった。中国経済の減速が懸念され、豪ドル/円は急落。その後浜田内閣官房参与が「購買力平価からすると(ドル/円は)105円位が妥当」「物価目標2%にこだわる必要はない」などと発言した事を受けて円買いが強まると、90.885円まで一段安となった。
16日	豪3月雇用統計は失業率が6.1%、新規雇用者数が3.77万人増、労働参加率が64.8%といずれも予想(6.3%、1.50万人増、64.6%)より強い結果となった。また、前回分は上方修正(失業率:6.3%→6.2%、新規雇用者数:1.56万人増→4.20万人増)された。予想以上に良好な結果を受け、豪ドル/円は上昇。米長期金利が低下して豪ドル/米ドル相場で豪ドル買いが優勢となると、93.014円まで一段高となった。原油相場が反発した事も追い風となった。
22日	豪第1四半期消費者物価は前年比+1.3%と予想通りであったが、RBAが重視する基調インフレ率は前年比+2.35%(予想:+2.25%)を上回る伸びとなった。発表後はRBAの5月利下げ観測がやや後退すると共に豪ドル買いが優勢となり、豪ドル/円は上昇した。
29日	予想を大幅に下回る伸びに留まった米1-3月期国内総生産(GDP)を受けて全般的に米ドル売りが強まり、豪ドル/米ドル相場が上昇すると、豪ドル/円は1月21日以来となる95.948円の高値を記録。しかしその後、米連邦公開市場委員会(FOMC)声明が事前に予想されたほどハト派的な内容ではなかったため、米ドル買いが強まると、豪ドル/円は上げ幅を縮小した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

日経平均

OPEN	19129.75
HIGH	20252.12
LOW	18927.95
CLOSE	19520.01

NYダウ平均

OPEN	17778.52
HIGH	18175.56
LOW	17585.01
CLOSE	17840.52

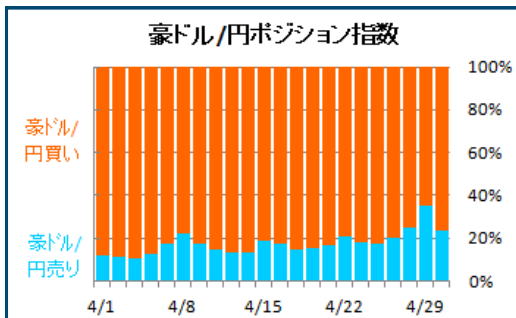
上海総合指数

OPEN	3748.340
HIGH	4572.391
LOW	3742.213
CLOSE	4441.655

豪10年債利回

OPEN	2.3090%
HIGH	2.6800%
LOW	2.2570%
CLOSE	2.6460%

4月のポジション動向



5月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・豪3月貿易収支(5日)
- ・RBAキャシュターゲット(5日)
- ・豪3月小売売上高(6日)
- ・豪4月雇用統計(7日)
- ・RBA四半期金融政策報告(8日)
- ・中国4月貿易収支(8日)
- ・米4月雇用統計(8日)
- ・RBA議事録(19日)
- ・日銀金融政策決定会合(21~22日)
- ・米4月消費者物価指数(22日)
- ・中国5月HSBC製造業PMI・速報(21日)
- ・主要国株価、国際商品市況

5月の見通し

今月は豪州での金融政策に関するイベントに注目したい。一つは5日のRBA理事会であり、現時点では利下げを予想するエコノミストが多いが、金利先物市場では利下げ観測がやや後退しており、見方が分かれている。仮に据え置きとなれば前月に続いて豪ドルが買い戻される可能性が高い。その際に発表される声明文にも注意が必要であり、追加利下げを示唆する事があれば金利が据え置かれたとしても豪ドルが売られそうだ。ただし、政策スタンスを中立とするのならば、仮に利下げが行われたとしても「悪材料出尽くし」との見方から豪ドルが買い戻される事もあり得る。政策金利発表と声明文の2段階構えで挑みたい。もう一つは8日のRBA四半期金融政策報告である。今後のRBAの金融政策についての見解以外にも、インフレや経済成長の見通しが2月時点(インフレ率・・・2-3%の目標圏内に収まる、経済成長率・・・2015年が2.25-3.25%)から変化があれば材料視されるだろう。

そのほか、減速懸念と景気刺激策導入期待が入り混じる中国経済や、鉄鉱石や原油を始めとした国際商品市況にも注目したい。(川畑)

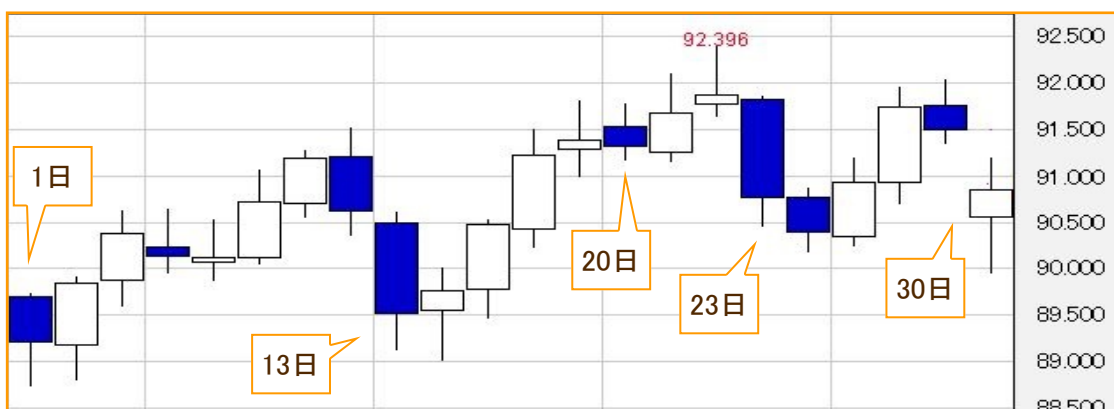
(予想レンジ: 90.800~96.200円)

NZD / JPY

NZドル/円 4月の推移

4月のNZドル/円相場は88.751~92.396円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約1.3%の小幅上昇(NZドル高・円安)となった。

豪準備銀行(RBA)の利下げ観測を背景に豪ドル/NZドル相場で豪ドル売り・NZドル買いが優勢となり、パリティ(1豪ドル=1NZドル)割れを窺う流れが続いた事から、じり高で推移。22日に92.396円まで値を上げた。しかし、23日のNZ準備銀行(RBNZ)のマクダーモット総裁補佐の発言や、29日のRBNZ理事会のハト派的声明も重石となり、上げ幅を縮小して取引を終えた。とはいえ、相場を動かす決定的な材料を欠く中、月の高安はわずか3.645円と、昨年8月(1.848円)以来の小動きとなった。



四本値

OPEN	89.703
HIGH	92.396
LOW	88.751
CLOSE	90.864

1日	NZ乳業大手フォンテラが実施した乳製品入札で、GDT指数が前回比-10.8%(前回-8.8%)となった。これを嫌気してNZドル/円は88.751円まで下落した。
13日	中国3月貿易収支が30.8億ドルの黒字と予想(401.0億ドルの黒字)の1/10にも満たない結果となった。中国経済の減速が懸念され、NZドル/円は急落。その後浜田内閣官房参与が「購買力平価からすると(ドル/円は)105円位が妥当」「物価目標2%にこだわる必要ない」などと発言した事を受けて円買いが強まると、89.130円まで一段安となった。
20日	NZ第1四半期消費者物価が前期比-0.3%、前年比+0.1%といずれも予想(-0.2%、+0.2%)を下回る伸びとなった。これを受けNZドル/円は一時91.241円まで下落。ただ、3月時点でのRBNZ予想(前期比-0.4%)を上回った事もあり、下押しは一時的であった。
23日	マクダーモットRBNZ総裁補佐が「金融政策は引き続き緩和的だろう」「現時点では政策金利引き上げについては検討していない」などと発言。これを受けてNZドル売りが優勢となった。
30日	RBNZは声明で「金融政策を緩和的に維持すると見込んでおり、現在では政策金利の引き上げを検討していない」「需要が悪化した場合や、賃金、物価がインフレ目標と整合的な水準を下回った場合は利下げが適切になる」などと表明した。ハト派的な声明を受け、NZドル/円は前日終値(91.514円)から1円近く下で寄り付いた。

NZD/JPY

日経平均

OPEN	19129.75
HIGH	20252.12
LOW	18927.95
CLOSE	19520.01

NYダウ平均

OPEN	17778.52
HIGH	18175.56
LOW	17585.01
CLOSE	17840.52

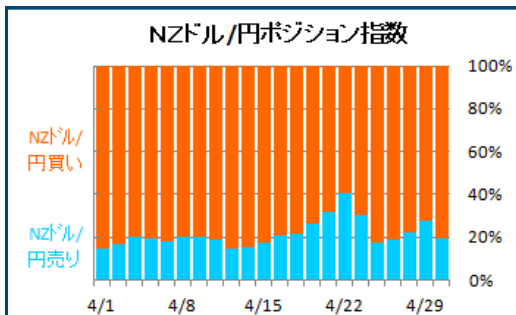
上海総合指数

OPEN	3748.340
HIGH	4572.391
LOW	3742.213
CLOSE	4441.655

NZ10年債利回

OPEN	3.2240%
HIGH	3.4570%
LOW	3.0910%
CLOSE	3.4470%

4月のポジション動向



5月の注目ポイント

- ・NZフォンテラ入札(5日、19日)
- ・NZ1-3月期失業率(6日)
- ・米4月雇用統計(8日)
- ・NZ1-3月期小売売上高(14日)
- ・NZ1-3月期生産者物価(19日)
- ・日銀金融政策決定会合(21~22日)

月間指標カレンダー(外部リンク)

- ・米4月消費者物価指数(22日)
- ・中国5月HSBC製造業PMI・速報(21日)
- ・NZ4月貿易収支(26日)
- ・主要国株価、国際商品市況

5月の見通し

先月のNZドル/円は昨年8月以来の小動きとなった。今月もNZドル相場のトレンドを決定付けるような材料が見当たらない中、フォンテラの乳製品入札やNZ国内の各種経済指標を眺めつつ、方向感を模索する事となろう。今年に入り乳製品入札は好調であったが、直近では3回連続で前回を下回っている。前回比でマイナスが続けばNZドル相場の重石となろう。他方、NZ1-3月期失業率は事前予想が5.5%と、昨年7-9月期に2009年1-3月期以来の低水準を記録した5.4%に迫ると予想されている。先月のRBNZ声明で言及した賃金を含めて雇用状況の改善が見られれば、NZドル買いの材料となる事も考えられる。

そのほか、豪ドル/NZドル相場にも注目したい。4月6日に1.0021NZドルまで下落してパリティ(1豪ドル=1NZドル)割れ目前に迫るも、同レベルを割り込めなかった為、30日に1.0521NZドルまで反発して3月高値(1.0531NZドル)に迫った。仮に3月高値を更新するようだと、NZドル相場の重石となる公算が大きいだろう。(川畑)

(予想レンジ: 88.200~92.100円)

ランド/円 4月の推移

ZAR/JPY

4月のランド/円相場は9.744~10.181円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約1.3%の小幅上昇(ランド高・円安)となった。

ランド/円は7日に10.181円まで上昇するも3月高値(10.277円)を前に伸び悩み。その後は23日に9.774円まで反落して前月安値(9.689円)に接近するも下げ渋るなど、方向感が定まらなかった。中旬以降、同国最大の輸出品であるプラチナ価格が低迷した事や、同国内で移民襲撃が相次いだ事、電力供給が綱渡りである事、6月に格付け会社フィッチが格付けを引き下げるとの観測が根強い事などがランド相場の重石となった。しかし、下旬に入り予想より弱い米経済指標が相次いだ事などから全般的にドル売りが進み、ドル/ランド相場でドル売り・ランド買いの流れとなって反発するなど、材料面での一貫性が見られなかった。



四本値

OPEN	9.870
HIGH	10.181
LOW	9.744
CLOSE	10.014

6日	欧州勢がドル売りで参入した事や、米3月労働市場情勢指数の悪化を受けて米6月利上げ開始観測が後退した事から、ランド/ドル相場がドル買い・ランド売りが強まった。これを受け、ランド/円は一時10.159円まで上昇した。
13日	浜田内閣官房参与が「購買力平価からすると105 円位が妥当」「物価目標2%にこだわる必要ない」などと発言した事を受けて円買いが強まると、ランド/円は9.873 円まで下落した。中国3月貿易収支が30.8億ドルの黒字と予想(401.0億ドルの黒字)の1/10にも満たない結果となり、中国経済の減速が懸念された事も、ランド/円の重石となった。
14日	国際通貨基金(IMF)が南アの2015年の経済成長見通しを2.0%、2016年は2.1%と1月時点(2.1%、2.5%)から下方修正した。ただ、同時に米国の2015年の経済成長見通しを3.1%と1月時点(3.6%)から引き下げた為、全般的なドル売りの強まりを受けてドル/ランド相場が下落(=ランド高)したため、ランド/円の下押しは限定的であった。
22日	南ア3月消費者物価指数が前月比+4.0%と予想(+4.1%)を下回る伸びとなったが、ランド/円相場の反応は限定的であった。

日 経 平 均

OPEN	19129.75
HIGH	20252.12
LOW	18927.95
CLOSE	19520.01

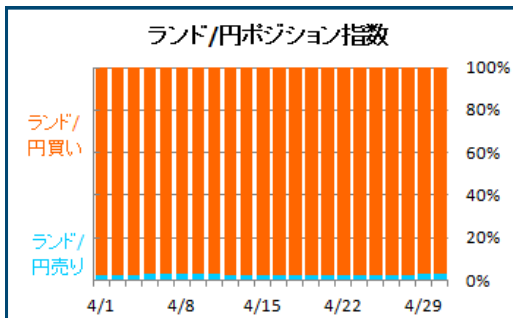
NYダウ平均

OPEN	17778.52
HIGH	18175.56
LOW	17585.01
CLOSE	17840.52

N Y 金

OPEN	1182.90
HIGH	1224.20
LOW	1174.60
CLOSE	1182.40

4月のポジション動向



5月の注目ポイント

- ・南ア1-3月期失業率(4日)
- ・米4月雇用統計(8日)
- ・南ア4月消費者物価指数(20日)
- ・SARB金融施策発表(21日)
- ・日銀金融政策決定会合(21~22日)
- ・米4月消費者物価指数(22日)
- ・中国5月HSBC製造業PMI・速報(21日)
- ・南ア1-3月期GDP(26日)
- ・南ア4月貿易収支(29日)
- ・主要国株価、国際商品市況

月間指標カレンダー(外部リンク)

5月の見通し

今月は南アで金融政策が発表される。現時点では政策金利を変更するとの予想は聞かれず、市場の関心はその際に発表される声明に集まっている。前回3月の声明では物価上昇への警戒感を示すなど「市場が予想したほどハト派的ではなかった」事から、ランド/円が買われる場面が見られた。足元で原油相場の持ち直しを背景にインフレ率が下げ止まっている事などから、SARBがインフレ警戒姿勢を緩めない事も考えられる。その他、1-3月期の失業率や国内総生産の発表もあり、こちらも注目したい。

テクニカル面では、4月のランド/円相場は3月の高安どちらも突破できずに小動きとなった。3月の高値(10.277円)と安値(9.689円)のどちらかブレイクした方に、次の流れが発生すると見られる。(川畑)

(予想レンジ:9.500~10.400円)